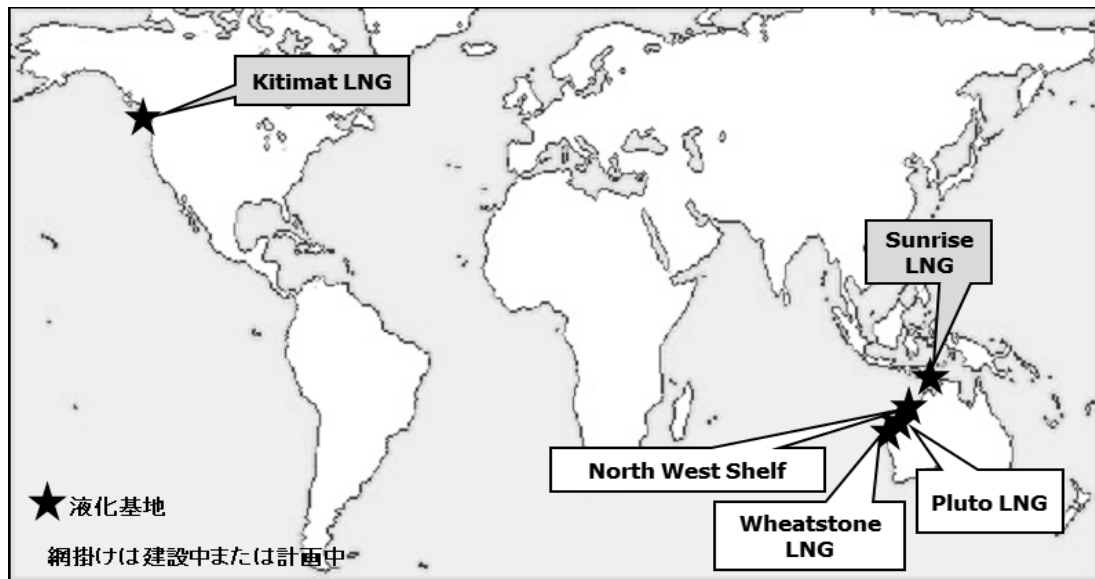


9. Woodside

(1) 企業概要

Woodside は豪州最大の石油・ガス生産会社であり、豪州を中心に 5 カ国で開発・生産事業を行なっている。2019 年の同社の石油・ガス確認可採埋蔵量は約 8.71 億 boe であった。同年の生産量 8,960 万 boe (24.5 万 boe/d) のうち、LNG 及び LPG を含むガスが 83% を占め、原油とコンデンセートが 17% となっている。石油・ガス生産の中心は豪州であり、生産量全体の 99% を占めている。

Woodside の LNG 液化基地図



(2) LNG 関連

Woodside の LNG 事業の中心は、1989 年に生産を開始した NWS (North West Shelf) である。2008 年には第 5 トレインが生産を開始し、2018 年 9 月には 5,000 番目のカーゴを出荷した。Woodside の LNG プロジェクトとして 2 件目となる Pluto LNG は、2012 年 5 月に初カーゴを日本向けに出荷した。Pluto LNG は 2012 年の生産開始から生産能力が 15% 向上し、2019 年は 37.1 万 boe (Woodside シェア分) を出荷した。

2015 年、Woodside は Apache 社が保有していた豪州 Wheatstone LNG とカナダ Kitimat LNG プロジェクトの権益を買収した。Wheatstone LNG は、2017 年 10 月に生産を開始し、2018 年には第 2 トレインからも生産を開始した。また、2016 年 9 月には、西豪州 Scarborough プロジェクトの権益を BHP Billiton (現 BHP) から取得し、2020 年 3 月時点で Woodside の持ち分は 73.5% となっている。同プロジェクトについては、Pluto 基地へパイプラインでガスを輸送し液化する計画を進めており、Pluto 第 2 トレインとともに 2021 年下期での FID を目指している。Browse プロジェクトは NWS LNG の Karratha Gas Plant (KGP) にパイプライン輸送を行い、液化する形式を検討中で 2023 年以降の FID を予定

IV. 主要企業別 LNG 事業動向

している。また、Sunrise LNG については、原料ガスを供給する鉱区が豪州と東ティモールの海域をまたいで存在し 2018 年 3 月には、豪州と東ティモールが「ティモール海洋境界線条約」に調印し、Greater Sunrise ガス田に関わる収入配分を取り決めた。2019 年 8 月 30 日に同条約が発効したが、プロジェクトの開発に関する具体的な検討は進んでいない。その他ミャンマーの A-6 区においてもガスの探査が行われており、2021 年中の FEED (Front End Engineering Design) が計画されている。

Woodside が出資する LNG プロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 (万トン/年)	生産開始	出資者	主要仕向地
オーストラリア	North West Shelf (Train 1-2)	500	1989年	Woodside 16.7%, Shell 16.7%, BHP 16.7%, bp 16.7%, Chevron 16.7%, M M I(三菱商事 50%, 三井物産 50%) 16.7%	アジア
	(Train 3)	250	1992年		
	(Train 4)	440	2004年		
	(Train 5)	440	2008年		
	Pluto LNG (Train 1)	490	2012年	Woodside 90%, 関西電力 5%, 東京ガス 5%	アジア
	(Train 2)	500	計画中	Woodside	N.A.
	Wheatstone LNG (Train 1)	445	2017年	Chevron 64.136%, Woodside 13%, PEW 8%, KUFPEC 13.4%, 九州電力 1.464%	アジア
	(Train 2)	445	2018年		
	Scarborough Pluto LNG Train 2 (に供給予定)	400-500	2024年 計画中)	Woodside 73.5%, BHP 26.5% (WA-1-R区、WA-62-R区)	N.A.
	Browse (NWS LNG への供給を計画中)	N.A.	2026-2027 計画中)	Woodside 30.60%, Shell 27.00%, bp 17.33%, M M Iブラウズ(三菱商事 50%, 三井物産 50%) 14.40%, PetroChina 10.67%	アジア
Sunrise LNG	400	2027年以降 計画中)	東ティモール政府 56.56%, Woodside 33.44%, 大阪ガス 10%	N.A.	
カナダ	Kitimat LNG, BC	1,800	2029年 計画中)	Chevron 50%, Woodside 50%	N.A.

(3) 今後の戦略

Woodside は、今後の成長戦略として国内の Burrup Hub と海外資産の商業化の 2 点を挙げている。国内では Scarborough、Pluto LNG、Browse、KGP 及び Pluto LNG と KGP を結ぶ Pluto-KGP Interconnector を Burrup Hub として総合的に開発することで、今後数十年にわたる安定したエネルギー供給と雇用につなげていく方針である。国際資産の商業化に向けては、セネガル Sangomar 石油・ガス田について、2023 年に原油生産を開始することを目指している。ミャンマーでは、同国最大級の沖合資源である A-6 鉱区開発を目指して探査活動を続けており、240 km の海底パイプラインで同国内およびタイ市場への輸送をめざしている。さらにカナダ Kitimat、前述の東ティモール・豪州にまたがる Sunrise ガス田を将来の成長に向けた資産と位置付けている。また、Burrup の Hub 化により、Tolling ビジネスも新たに創設されることとなり今後どのような展開を見せるのか注目が必要である。